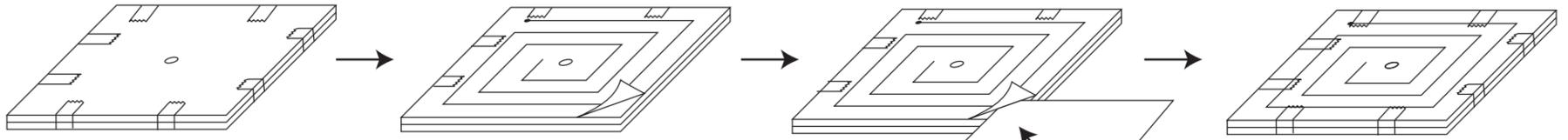


# らせんツリーの制作手順

1. 「らせん」用板2枚をテープで留め、らせんを描いて、糸のこ版で切る。

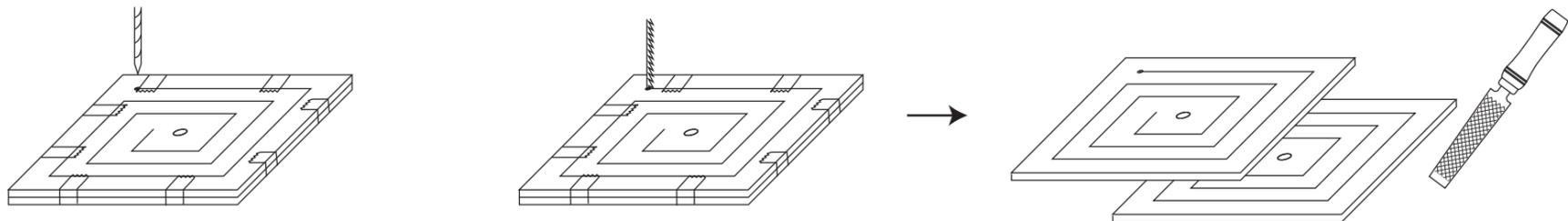


穴を合わせて板をテープで留める  
らせんの型紙を板に留める  
(2辺にテープを貼る)

カーボン紙を差し込みなぞる

カーボン紙と型紙をはずす

2. 「らせん」を切り、やすりをかける。(1)

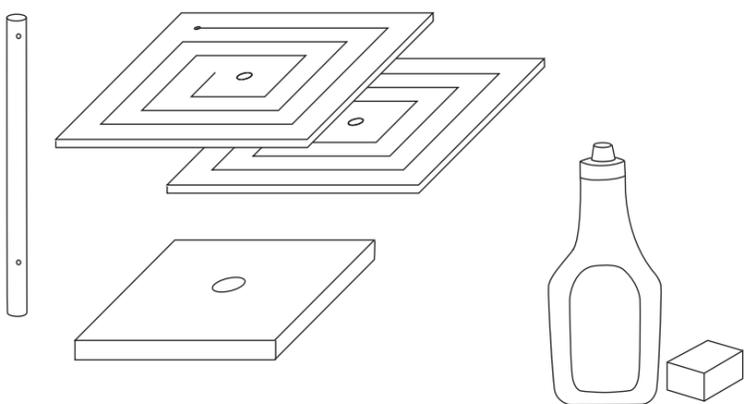


のこ刃を通す穴を開ける

電動糸のこで切る

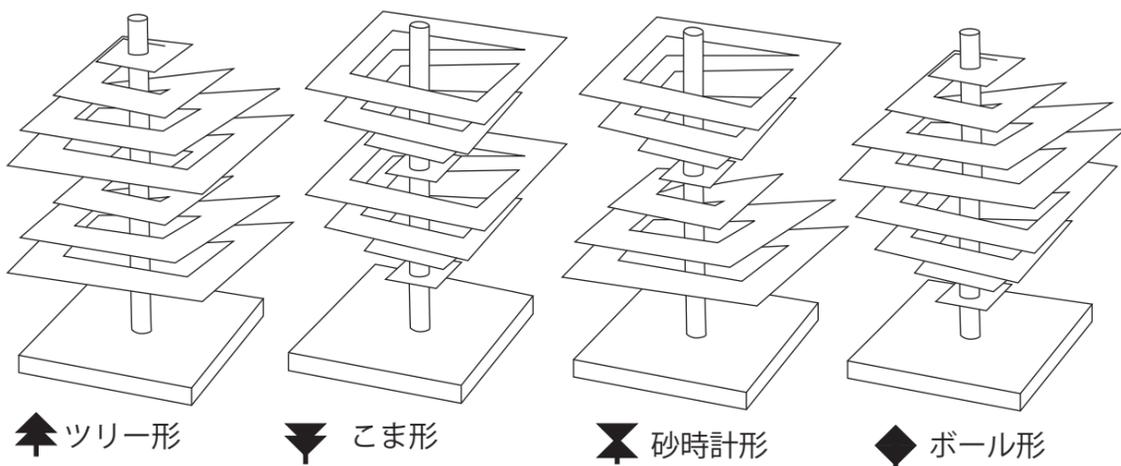
テープをはずしやすりで切り口を整える

3. 「支柱、土台、らせん」に「アクリル絵の具」と「スポンジ」で色を着ける。



- ・土台のみ底面はぬらなくてよい。
- ・必ず新聞紙をしく。
- ・支柱、土台、らせんは色を変えても良い (似た色がおすすめ)
- ・らせんは、1枚ずつ色を変えてもよいが、裏表は同じ色にする。
- ・横も忘れずにぬる。
- ・支柱やらせんに絵具がついて、穴に入らなくなったときは、やすりで穴を少し広げる。

4. 完成の形をどれにするか決める。



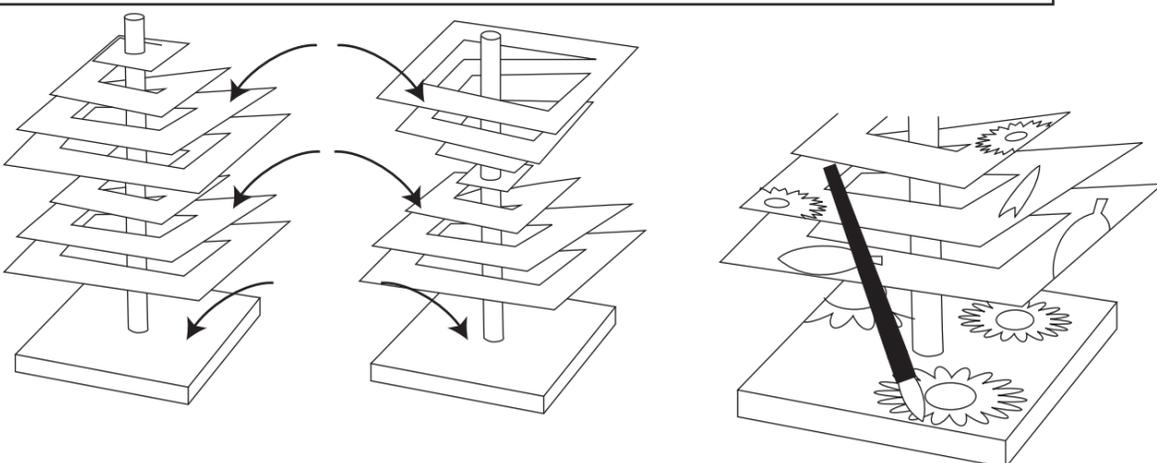
・ツリー形とこま形は支柱の中ほどに2つの穴をあけ、そこにも棒を通してらせんをとめる



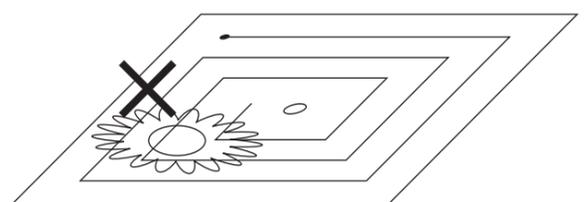
・砂時計形とボール形は真ん中にくる板どおしを接着しておけば、追加の穴は必要ない。  
(上と同じとめ方をしてもよい)



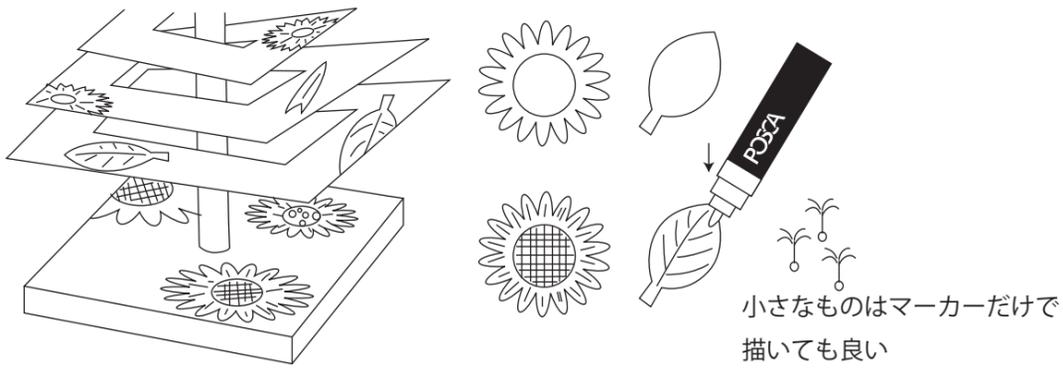
5. 「上から見える部分」に「アクリル絵の具」と「筆」で模様や景色を描く。



- ・完成の形によって塗る面が違ってくるので、注意する。
- ・組み立てると離れてしまうので、切った線にまたがって絵を描かない。

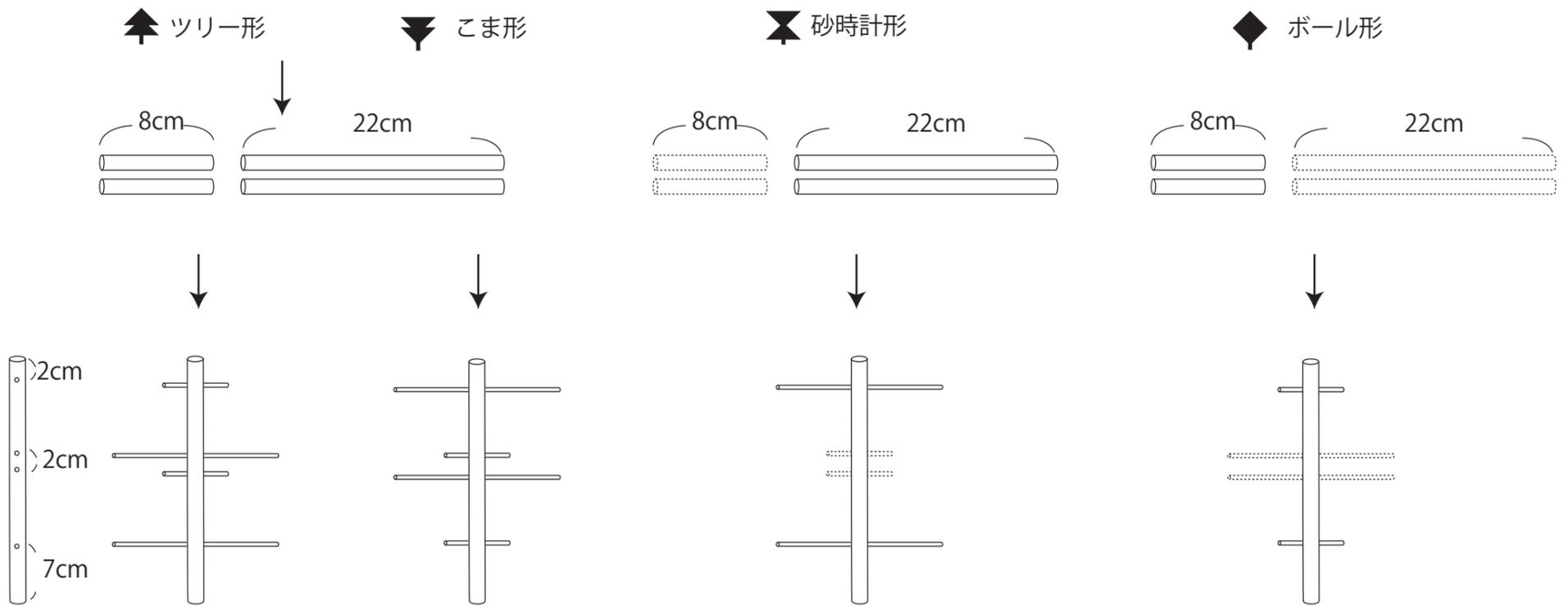


6. 「アクリル絵の具」が乾いてから、「マーカー」で模様や景色を描く。

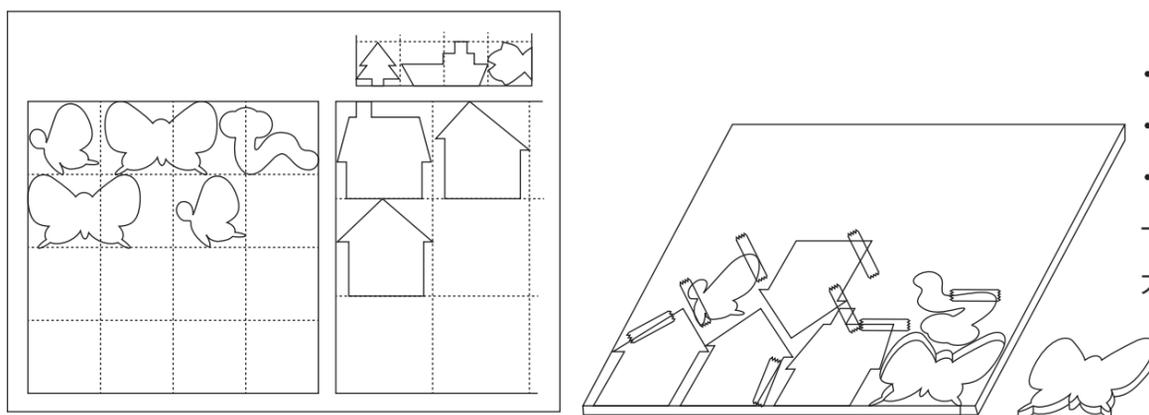


- ・マーカーは線描き又は点描き用と考えておく。
- ・マーカーではキャップの直径より大きな部分を塗らない。
- ・5. 筆、6. マーカーを繰り返し、描くものを増やしていく。時間があれば、下から見える部分にも描いてよい。

7. 細い丸棒 (0.5×30cm) を必要な長さにして、ツリーを組み立てる。(2枚の板を接着する場合は点線の部分は不要)



8. 立体的な飾りの案を紙に描く。それを切り取り型紙として利用し、板を切る。



- ・まっすぐな部分は板の辺を利用する。
  - ・板にはなるべく詰めて貼り、捨てる部分を少なくする。
  - ・小さい部品は手で押さえられなくなるので、一度で切ってしまう。
- 大まかな形から形を整えることはしない。

9. 切り取った飾りに「アクリル絵の具」で大まかに色をつけたあと、「マーカー」で細かい部分を描く。できたらツリーに取り付ける。



板を貼りあわせて立体的にしても、おもしろい